

01 「はじめまして」の心で (高齢者)

5 皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。身近な人が、あなたのことを誰なかわからなくなったとしたら、どうしますか？ この曲を聴いてみてください。

10 〈曲〉ねえばあちゃん、はじめまして。今日もあなたに会いに来たんだよ。

15 (ナレーター) この曲は「はじめまして、ばあちゃん。」というタイトルで、福岡市の「ミサंगा」というバンドが歌っています。メンバーの高尾和行(たかお・かずゆき)さんが、九十二歳になる祖母のヤスエさんに贈った曲で、介護施設などで共感を呼んでいます。それにしても、なぜ「はじめまして」なんでしょうか。高尾さんに聞いてみましょう。

20 【高尾】はい、高尾です。祖母は認知症を患っていて、叔父と叔母が自宅で介護しています。僕は時々、会いに行っていました。ある時から僕のことわからなくなったんです。それで僕も「なんでわからんと？」と責めるようなことを言っていました。

25 (ナレーター) ヤスエさんはどんな様子でしたか？

【高尾】とっても困った顔をして、どうしていいのかわからない感じでした。

30 (ナレーター) 思い出したくても思い出せずに、つらかったのかもしれないね。

35 【高尾】そうだと思います。でも、ある時、「はじめまして」とあいさつされたので、何の気なしに「はじめまして」と返したんです。そしたらにっこり笑ってくれて……。その時に、祖母にとっては毎日が新しい一日なのかもしれない、と思っ  
たんです。

40 (ナレーター) それからヤスエさんは少し元気になられたそうですね。

45 【高尾】はい。それで、この曲を祖母の前で歌ったんです。そしたら、涙を浮かべながら「ありがとう」って言ってくれたんです。孫だとは認識していないかもしれませんが、自分のことを大切に思ってくれている誰かだとわかってくれたんです。気持ちは通じているんだなあと思いました。

50 (ナレーター) 認知症は脳の細胞が働かなくなると記憶がなくなっていく症状で、誰でもそうなる可能性があります。認知症の人との向き合い方に悩む人も多いですし、虐待という悲しい出来事も起きています。でも、すべての人には「幸せ

に生きる権利」があります。身近な人が認知症のことを理解して、その人に合った対応をしていくことで、笑顔で過ごせる時間が増えるのではないのでしょうか。

55

へ曲ぐねえばあちゃん、溢れ出したこの思いは届いてるよね、ばあちゃん。次会っても「はじめまして」を交わそう。